江東きっずクラブ

平成28年度は区内小学校39校で実施

江東きっずクラブは、放課後や夏休み等に児童が安全で安心して過ごせる居場所・生活の場です。平成22年度からスタートし、毎年実施校を増やしており、平成28年度には区内39校の小学校で実施します。江東きっずクラブには2種類の登録があります。A登録（放課後子ども教室機能）は実施校に在籍する1～6年生を対象として、誰でも登録でき、放課後等の遊び場・学びの場を提供します。B登録（学童クラブ機能）は実施校に在籍し、保護者が就労している世帯等の1～3年生（特別支援学級、または特別支援学校に在籍している4～6年生も含む）を対象として、家庭に代わる生活の場を提供します。

平成28年度新規開設校

南陽小・川南小・第二亀戸小・第四大島小・第三砂町小・小名木川小の6校で新たに江東きっずクラブを開設しますが、そのうち川南小・第三砂町小の2校はB登録の専用スペースの確保が困難なため、当面はA登録のみを実施します。川南小のB登録は近隣の千田学童クラブで、第三砂町小のB登録は近隣の南砂六丁目学童クラブで対応します。

平成28年度からの変更点

平成28年度より、江東区立小学校以外に在籍する区内在住の児童についても、住所地が学区域にあたる当該校の江東きっずクラブ（げんきっずも含む）において、受け入れを行います。

今後の展開について

区では平成29年度までに区内全小学校での江東きっずクラブの実施を目指し、開設に取り組んでいます。放課後等に児童が安全で安心して過ごせる居場所・生活の場を提供できるように努めてまいります。

問　放課後支援課支援係　TEL（3647）9308

教育委員会だより

【教育委員の構成】

委員長
進藤 孝

委員長職務代理者
松江 恒治

委　員
眞貝 裕利子

委　員
宇佐美 衛

教育長
岩佐 哲男

【教育委員会について】

区の教育に関する様々な施策は、5人の教育委員による教育委員会の会議で決めています。

【教育委員会の開催状況】

平成27年4月から9月までの間に定例会を6回、臨時会を2回開催しました。主な議題は次のとおりです。

◆議事案件（17件）
・平成26年度江東区一般会計歳入歳出決算
・江東区立幼稚園の保育料に関する条例

◆報告案件（37件）
・教育振興基本計画・教育ビジョン・大綱の策定について
・平成27年度学校選択結果について
・学校施設の収容対策について
・平成26年度「こうとう学びスタンダード」定着度調査の結果概要について

◆協議案件（7件）
・平成27年度江東区立中学校教科用図書採択について

◆その他の活動
・江東区総合教育会議
・こうとうこどもスポーツデー
・小学校連合運動会 等各種行事

【今後の教育委員会開催予定】

※平成28年1月11日現在

第1回定例会　1月22日㈮午前10時
第2回定例会　2月26日㈮午前10時
第3回定例会　3月23日㈬午前10時

開催日程、会議の傍聴については、庶務課庶務係までお問い合わせください。

問　庶務課庶務係　TEL（3647）9170

表彰等のお知らせ

優れた功績があった学校の先生や、学校活動を支援している団体・個人が表彰されました。

○東京都教育委員会職員表彰

藤本　渡（深川第二中学校長）
山本 昭比古（深川第五中学校長）
前田 有美子（深川第三中学校）

○学校活動支援団体等に対する東京都教育委員会感謝状贈呈

［学校教育活動支援部門］

おはなし　くれよん（数矢小学校推薦）

［環境整備支援部門］

田村　勝恵（第二大島小学校推薦）

問　庶務課庶務係　TEL（3647）9170

学校医等で医療及び保健衛生の向上に尽力し、功労顕著な方が表彰されました。

○東京都功労者表彰

（福祉・医療・衛生功労）
高橋　秀徳（第二南砂中学校外1園　学校薬剤師）
赤羽根　巖（第二砂町小学校　学校医）
室伏　聡（大島中学校外1園　学校歯科医）

（学校薬剤師）
澤井　真智子（豊洲小学校外1園　学校薬剤師）
錢元　眞規江（第五砂町小学校　栄養教諭）

○東京都教育委員会表彰

（健康づくり功労）
水神小学校

（健康づくり優良学校）

問　学務課給食保健係　TEL（3647）9177

『すべてのこどもたちが俳句に親しむまち こうとう』を目指して

区では、こうとう学びスタンダードの国語スタンダードの項目に「季節を感じ、俳句に親しみます」と盛り込み、各学校の実態に応じて、季節を感じ、俳句に親しむ児童・生徒の育成を目指しています。すべての学校で、すべての児童・生徒が俳句を作り、親しむことが出来るように取り組みを推進しています。

○俳句教育担当者の設置

俳句教育を推進していくため、区との連携の窓口として、各校に俳句教育担当者を設置しています。

◎俳句授業への講師派遣

俳句授業を活発に行うための支援として、学校支援課から俳句講師を各学校に派遣しています。より多くの希望に応えられるよう、複数の講師を派遣できるようにするとともに時数を増やすなど充実を図っています。

俳句講師の授業の様子

○江東区立小・中学校俳句集「きらり」の作成

児童・生徒の俳句を区として俳句集にまとめ、俳句教育のさらなる充実を図っていきます。各学級から代表の句を選出してもらい、優れた句を表彰しています。俳句集は毎年作成し、各学校での俳句教育に活用できるよう、学級文庫や図書室等に所蔵しています。

○「きらり☆こうとう俳句祭」の開催

昨年度から、こどもたちの俳句への興味関心をさらに高めるため、俳句集に掲載された児童・生徒の表彰や、俳句を楽しむイベントを開催しています。今年度は2月20日に江東区文化センターで開催します。

○俳句教育推進ニュース及び俳句ワークシートの発行

定期的に俳句教育推進ニュースを発行し、その時季の俳句に関わる話題やテーマ、俳句教育のヒントとなるようなことについてまとめ、発信しています。今年度からは授業で活用できる「俳句ワークシート」も定期的に発行し、俳句教育推進ニュースと同様に、学校の先生方が常時使えるようにしています。

○俳句教育専門委員会の設置

26年度に設置した俳句教育専門委員会で、区の俳句教育の推進について引き続き検討し、区としての俳句教育の年間指導計画案を配付する予定です。

○江東区立中学校俳句部の活動

特色ある部活動の一つとして23年度に創部しました。部員たちは、熱心に活動し、俳句のコンテストでの入賞等のほか「きらり☆こうとう俳句祭」では運営に協力して活躍しています。今後も活躍の機会をさらに広げ、活動を充実していきます。

問　学校支援課学校支援係　TEL（3647）9307

俳句づくりのワンポイント②

俳句は季語を入れた「上五中七・下五」の十七音からなる世界で一番短い詩です。今回はご家庭でも気軽に俳句に取り組めるよう、易しい俳句の作り方を紹介します。

①テーマを決める

まず、身近な出来事や場所など、五音の言葉のテーマを決めます。たとえば、日曜日、誕生日、遊園地、遊歩道、ランドセルなどです。（リズムがよければ六音でも可）今回は、「日曜日」を例に使います。

②季語を決める

次に季語を決めます。冬の風、冬の空、みぞれ降る、冬の雨、春を待つ、冬うららの中から好きな季語を選びましょう。すると、こんな形になります。

冬うらら○○○○○○○日曜日

③中七を考える

日曜日に何があったか、何をしたか思い出しましょう。見たことや空想の出来事でもかまいません。

冬うららっり三昧の日曜日

④テーマを変えて詠んでみる

日曜日ができるのならば、月曜日や金曜日でもできます。隅田川とか八幡宮などを題材にすることもできます。

冬うらら船の行き交う隅田川
冬の雨人影消えた八幡宮

俳句は多作多捨といいます。善し悪しにこだわらず、気軽にたくさん作ることで慣れて楽しくなり、その中から素敵な俳句が生まれてくるでしょう。

問　学校支援課学校支援係　TEL（3647）9307

ココがすごい！ 江東区立幼稚園

遊びの中で学んでいます

区立幼稚園では、心と体と頭を使って、友達と協力しながらたくさん遊んでいます。遊びの中で育まれた、心情・意欲・態度は幼児の自信につながり、もっとやりたい、もっと知りたい、という気持ちが小学校以降の学びをしっかりと支えます。

「わぁ、氷ができているよ」

冬のとても寒い朝、幼稚園では、「氷って冷たいね」「反対側が見えるよ」こんな声が聞こえます。そして「もっと見つけよう」と氷探検に向かいます。砂場の遊具を洗うタライ、水たまり…触って冷たさを感じ、持っているとだんだん溶けていく様子を見て、割れる音を聞く。教えられるのではなく、自ら自然に関わっていくことで、こどもたちはたくさんのことに気付きます。

水のあるところに氷ができることに気付いたこどもたちは、タライを持ってきて水を張り、「どこに置こうかな～」と自分たちで氷作りの実験を始めます。

大人が決めた活動ではなく、このようなたくさんの体験から、こどもたちは日々主体的に学んでいます。

自ら体験したことを通して学んだ知識やその経験は、小学校での学習につながる「生きる力の基礎」となります。そして「学ぶことの楽しさ」「友達に認められる嬉しさ」などを十分に味わい、「自信」や「自己肯定感」をもち小学校へ入学していきます。

教師は氷ができることを予想してこんな工夫をしています！

- あえて砂場の遊具を洗うたらいに水を残しておく
- 園庭の植え込みや花壇に十分に水をまいておく
- 関連する図鑑や絵本を用意する

じっけんちゅう

問 指導室 TEL（3647）9179

おゆうぎ会？いえいえ、こどもが主体のこどもかい

区立幼稚園では劇遊びや楽器遊びなどを参観していただく“こどもかい”という行事があります。日頃から遊びの中で楽しんでいるごっこ遊びを、より本物らしく、友達と相談しながら自分たちの力で作り上げていきます。これは幼児期における問題解決能力を育てる、21世紀を生きていくこどもたちにとってとても大切な活動です。

新生 豊洲図書館

豊洲図書館は、平成27年9月24日にオープンした、豊洲シビックセンターの9～10階及び11階の一部に移転しました。

オープン当初は一日の来館者数が6千名を超えるほど多くの方にご来館いただいています。

キッズとティーンズのための新たなサービス

一般と児童のフロアを分け、こども連れの利用者が気兼ねなく利用できるように配慮しました。

10階の奥には建物コンセプトの『里山』をイメージした段差のあるクッション床の絵本書架「キッズコーナー」を設け、靴を脱いで絵本を読んだり、書架の前に座り込んでじっくり絵本を選んだりと、自由な形で読書を楽しむ幼児と保護者で毎日大賑わいです。

11階には定例おはなし会のほかに知育玩具や絵本、遊具などを置き、音を出して読書と遊びが楽しめる「おはなしのへやキッズ」を設けました。

平日・休日ともに大盛況で、お父さんと一緒に利用する姿も多くみられます。また、この部屋は、公募した30名の区民ボランティア「おはなしのへやキッズ運営ボランティア」の皆さんと一緒に運営しています。

ボランティアは、おはなしのへやキッズや、キッズコーナーで個別の読書要望に応える活動をしており、「こどもに読み聞かせをしている間に、保護者が絵本を選ぶなど、親子で楽しんでくれて嬉しかった。」「活動が楽しく、あっという間に時間が過ぎた。」など、活動の感想を寄せています。

今後はイベントの企画運営なども予定しています。

10階キッズコーナーでのボランティア活動

ティーンズ（YA）向けのサービスでは、10階にYAコーナーを設け、新たに雑誌や外国語資料を配架するなど蔵書を充実させたほか、CD試聴コーナー、両隣を仕切った閲覧席のほか会話・軽飲食が可能な屋外テラス席も設けました。

移転に伴う施設の充実により、制服姿の中高生の利用が目立ちます。来館した中学3年生の男子生徒は、「移転前よりも来館頻度が増え、今は週3回くらい友人達と勉強をするために来ている。移転前より明るくなり、利用しやすくなった。」とコメントしてくれました。

今後も利用状況を見ながら、サービスに工夫を凝らしていきたいと思います。

問 豊洲図書館 TEL（3536）5931

いきいきスクールネットワーク

「深一学」で育てよう本当の君の力を！

深川第一中学校

本校は、平成26・27年度江東区教育委員会研究協力校として、「総合的な学習の時間」についての研究を実践しています。

全校生徒が一つの異年齢集団グループを編成し、テーマを見つけ探究する力を育成する「深一学」を学習しています。昨年の11月27日には、2年間の研究成果を発表しました。

さらに、江東区学校ICTモデル事業校として指定を受け、ICT教育やタブレットを使用しての学習で、生徒に分かりやすい授業や指導法について研究・実践をおこなっています。

本校の生徒は、素直で明るく、小規模校ですがバスケットボールを筆頭に、部活動がとても盛んです。運動会や文化祭も、全生徒が活躍しています。

「深一学」でのフィールドワーク

笑顔で「おはよう」～全校で挨拶の取組～

南陽小学校

本校では「笑顔あふれる南陽小学校」のキャッチフレーズの下、全クラスの日直のこどもたちが、毎日、交替で校門に立ち、挨拶を率先して行う活動を続けています。ねらいは、声をかけられるという受け身の姿勢ではなく、自分から声をかける積極的な姿勢を育むことです。一部の子だけでなく、全員のこどもたちが関わる活動として実践しています。

クラスの代表として挨拶の声をかけることには、まだまだ恥ずかしさもあるようですが、学校の取組として定着してきました。その結果、こどもたちの自己評価では、「挨拶を心がけている」に対する肯定的な割合が高まりました。

学校公開でも、「元気な挨拶の声に、すがすがしい気持ちになりました。」との意見もいただきました。これからも、人と人との関わりを重視し、取組を進めてまいります。

毎朝の挨拶の取組

TOKYO 2020
オリンピック・パラリンピックを成功させよう！